

E024-021

会場：202

時間：5月27日 16:18-16:30

極域超高層における大気潮汐波の振る舞い(9) - スバルバール流星レーダーと ISCAT, SOUSY, PFMF レーダー観測、GCM モデルとの比較 -

Studies on the behavior of atmospheric tide in the polar upper atmosphere(9)-Svalbard ...

スバルバール流星レーダー-NSMR プロジェクト

Svalbard meteor radar group

緯度 78 度の北極域のスバルバール流星レーダー-NSMR (Nippon/Norway Svalbard Meteor Radar) と EISCAT、SOUSY レーダーによる観測はそれぞれ異なる散乱エコーと空間広がりから得られる観測結果であることから、平均流、大気潮汐波、

擾乱成分の比較は個々の観測技法の特徴を示す。これら on-site レーダーの短期間比較に加えて、北米域 Poker Flat MF レーダーはじめ各地に展開している観測点のデータを総合したグローバルな大気潮汐のクライマトロジーとその比較は、言うまでもなく波動モードやその季節変動機構の解明につながるが、北極域での観測データの蓄積に伴い徐々に未知の部分が明らかにされている。

本稿では約 2 年の流星レーダーの観測を概観し得られた知見と今後の狙いについて、WACCM モデリング等との相互比較を含め論じる。